

八千代の万治の三猿三面彫り庚申塔と同型塔の広がり

蕨 由美

はじめに

八千代市吉橋の高本八幡社の笠付角柱型庚申塔は、万治3年(1660)銘の市内で最古の庚申塔で、石塔の正面と左・右面の下部に三猿が一匹ずつ浮き彫りされているのが特徴です。この型式の三猿庚申塔を北総と関東で探してみましたが、江戸期における万治に遡る事例はまだ見つかりません。

今回の談話室では、万治から寛文期に三猿庚申塔が成立していく姿と、三猿三面彫り角柱型塔の分布を紹介し、またこの庚申塔の型式のルーツについて皆様方からの情報をいただきたいと思います。

1. 高本の万治三年銘笠付角柱庚申塔 (表1)

この庚申塔は総高140cm。笠と塔身は一石で彫りだされ、水鉢付の台座に載る。三面に彫られた各猿(左:不聞・正面:不見・右:不言)は、写實的で丸彫に近く、笠・塔身・台座のバランスもよい。

銘は「為庚申待現當二世悉地成就処 講人数十八一結諸衆 敬白」。

2. 万治3年以前の関東での庚申塔

・**最古の庚申供養板碑**: 関東の初出は、川口市の文明3年(1471)「奉申待供養結衆」銘の板碑。

・**北総最古の庚申塔**: 香取市貝塚来迎寺個人墓地内の「天正二二年」(4年1576)「當村善女」により「奉守庚申」三ヵ年供養のために建立されたとの銘が刻まれた宝篋印塔。

・**近世庚申塔の関東での初出**: 元和9年(1623)の足立区正覚院の弥陀三尊来迎像「奉待庚申供養成就所」銘塔と、同年銘の三郷市常楽寺の山王廿一社文字塔で後者は庚申信仰との結びつきは明示されていない。千葉県最古は、松戸市幸谷観音境内の寛永2年(1625)の山王廿一社文字塔で、銘は「奉南無山王廿一社庚申・・」。

荒川(現江戸川)流域を起源とすると考えられ板碑型の文字塔である。

・**近隣の江戸時代初期の庚申塔**: 慶安3年(1650)佐倉市先崎の地藏菩薩

坐像塔で銘「奉造立庚申人数廿五人/先崎村」。万治2年(1659)我孫子市手賀高野山香取神社の板碑型庚申塔「奉造立庚申講衆二世安楽所」銘

・**関東の江戸時代初期の二猿・三猿塔**: 寛永16年(1639)北区宝幢院の板碑型塔、阿弥陀像を拝む二猿像浮彫の山王権現信仰塔であるが、同じ図像がある寛永5年銘懸仏に「為庚申供養奉待」銘があることから「庚申塔」とみなされる(表2①)。寛永17年(1640)茅ヶ崎市輪光寺の光背型、銘の「當六与供養勤功德伴成佛」は年六回の庚申待を指すことから、三猿を本尊とする最古の庚申塔(表2②)。

・**北総の江戸時代初期の三猿付き庚申塔**: 正保3年(1646)浦安市大蓮寺の三猿付き聖観音像庚申塔(表2③)。慶安3年(1650)松戸市古ヶ崎圓勝寺の「奉造立庚申供養二世安楽所」銘板碑型塔、台石に三猿像あり。

・**関東の江戸時代初期の三猿付き庚申塔**: 承応2年(1653)富津市竹岡松翁院の合掌する仏像の下に三猿を彫り出した庚申塔(表2④)。

承応2年(1653)藤沢市伊勢山公園の光明真言を彫った板碑型塔で三猿が本尊(表2⑤)。万治2年(1659)我孫子市青山八幡神社の「奉造立石塔一軀 二世安楽所 万治二己亥今月吉日」銘の三猿付き板碑型塔(表2⑥)。近くの我孫子市高野山香取神社にも、同年銘の三猿が付かない板碑型文字庚申塔がある。

3. 三猿三面彫庚申塔の近隣地域への広がり

三面各面に一猿ずつ配し、願文を刻した笠付角柱の庚申塔の類似型は、寛文期より八千代市・佐倉市・印西市・白井市など近隣にも広がり、北総では寛文3年佐倉市新町の角柱塔から野田市の元禄期の駒型塔までの約40年間に13基の三猿三面彫塔が確認できた。

・寛文3年(1663)佐倉市 新町 嶺南寺 笠を喪失(表3&4②)

・寛文7年(1667)印西市 浦部原新田庚申塚(表3&4⑥)

・寛文10年(1670)船橋市 西船五丁目路傍 主尊薬師如来像・左右裏面下部に三猿(表3⑨)

・延宝元年(1673)八千代市 萱田 飯綱神社下(表3&4⑩)

・延宝3年(1675)白井市 富ヶ谷 薬師堂(表3&4⑬)

・延宝5年(1677)佐倉市白井田「お猿の松」(表3&4⑮)

・延宝8年(1680)芝山町山中宝樹寺跡 主尊は青面金剛 左右裏面下部に三猿(表3⑳)

- ・天和2年(1682) 八千代市 平戸字通原庚申塚 日蓮宗系(表3&4㉑)
- ・天和2年(1682) 八千代市 島田字道地庚申塚 日蓮宗系(表3&4㉒)
- ・天和2年(1682) 白井市 上長殿庚申塚(表3&4㉓)
- ・元禄2年(1689) か14年(1701)と推定 野田市関宿台町光岳寺 駒型の三面に三猿、銘「奉供養庚申／元禄[]巳天□月」(表3㉔)
- ・年不明 八千代市 保品庚塚 2019年調査で発見。角柱型庚申塔の下部残欠に左右正面に各一猿を浮彫り、銘は「諸願成就二世安楽攸／星名村郷願主廿六人敬白」、17世紀後葉の延宝期ごろか。(表3㉕)

4. 関東地域の三猿三面彫庚申塔

三猿三面彫庚申塔の淵源を知るために、東京都・埼玉県・神奈川県の庚申塔のデータを主にWebサイトから探してみた。

HP「神奈川県の庚申塔」では悉皆調査の膨大なデータを画像付きで掲載しており、その情報から神奈川県域では335基の三猿三面彫塔があったが、万治期に遡る事例は見られなかった。

- ・寛文元年(1661) 横浜市鶴見区 渋沢稲荷(表6㉑)近世宝篋印塔型
- ・寛文3年(1666) 横浜市栄区 金井町会館 主尊阿弥陀像
- ・寛文4年(1664) 厚木市 戸田八幡神社(表6㉒) 上部三面に三猿像
- ・寛文4年(1664) 平塚市 大神寄木神社(表6㉓) 高さ3mの塔
- ・寛文6年(1666) 横浜市泉区 御霊神社(表6㉔)
- ・寛文8年(1668) 江東区 亀戸普門院(表6㉕)
- ・寛文9年(1669) 藤沢市藤沢 常光寺(表6㉖)
- ・延宝4年(1676) 豊島区高田2 金乗院
- ・延宝5年(1677) 小田原市 飯泉村
- ・延宝8年(1680) 鎌倉市 笛田中志房

そのほか、千葉県・東京都・埼玉県の事例を表3に、神奈川県の事例のうち寛文元年から11年までを表5にまとめた。

5. 八千代市&隣接市の三猿三面彫型以外の江戸前期庚申塔

八千代市域とその周辺市域の寛文延宝期の庚申塔では、三猿三面彫型、横並びの三猿像板碑型のほか、主尊が如来・菩薩像、青面金剛の非定型像などさまざまであるが、18世紀以降は青面金剛像塔が主体となっていく。

- ・寛文元年(1661) 印西市 竹袋観音堂 聖観音&三猿像 市内最古

- ・寛文2年(1662) 印西市 中根山林内 三猿像 駒型
- ・寛文4年(1664) 船橋市 鈴見町 三猿像 板碑型 市内最古
- ・寛文10年(1670) 佐倉市 海隣寺町 愛宕神社 三猿像 駒型
- ・寛文10年(1670) 白井市 谷田庚申塚 三猿像 笠付角柱型 市内最古
- ・寛文10年(1670) 白井市 鷲神社 三猿像 板碑型
- ・寛文11年(1671) 印西市 砂田庚申堂内 二手青面金剛像と三猿像
- ・延宝2年(1674) 八千代市 神野 地藏像「奉新造立庚申待・・・」
- ・延宝2年(1674) 八千代市 大和田新田 市内最古の青面金剛像
- ・延宝3年(1675) 佐倉市 海隣寺町 青面金剛と二猿像 舟形光背型
- ・延宝3年(1675) 佐倉市 上座 一猿像 板碑型
- ・延宝4年(1676) 佐倉市 下志津原路傍 二手青面金剛&一猿・鶏
- ・延宝4年(1676) 船橋市 大神保町 釈迦如来&三猿像(日蓮宗系)
- ・延宝6年(1678) 八千代市 吉橋尾崎大師堂「奉造立庚申供養所・・・」
- ・延宝7年(1679) 船橋市 古作町明王院 三猿像 板碑型

6. 三猿三面彫庚申塔のルーツは？

嘉津山清先生から、伊勢市に中世の三猿三面彫庚申塔があるとのことご教示をいただき、「三猿庚申塔」を検索すると、「伊勢市公式ホームページ」の指定文化財として、永享12(1440) 銘の「三猿庚申塔」がある。

形態的にも類似しているが、220年の時間差と、伊勢-下総間の距離間をどう考察すればよいか、謎はいつそう深まるばかりである。

三猿庚申塔 <伊勢市公式ホームページ
所在地：伊勢市辻久留3丁目管理者個人
概要：塔身は角柱で、三面に「庚申年」、「永享十二」(1440)の刻銘と半肉彫りによる三猿が彫刻されています。「永享十二」は干支の庚申年にあたります。 本塔はもと倭町の経ヶ峰東麓に所在していたことが知られています。 参考文献：『伊勢市史』第7巻 文化財編

おわりに

情報をいただきました嘉津山清先生、HP「神奈川県の庚申塔」ほか石造物データをアップされているWeb管理者の皆様に謝意を表します。

表2の拓影出典：『図説庚申塔』 縣敏夫

表1 八千代市高本の万治三年銘庚申塔

正面上部		正面写真
<p>(梵字) 為庚申待現当二世悉地成就 講人数十八一結諸衆 白 敬</p> <p>万治三天 庚子十月吉日</p>		
左面	正面	右面
聞かざる (不聞猿) 像	見ざる (不見猿) 像	言わざる (不言猿) 像
新三又甚勘与 十良口四十七 郎右郎郎郎郎 郎 郎 郎 郎 郎 工 工 工 工 工 門 門 門 門 門	庄吉彦六半惣 十兵次左左七 良衛衛 郎 郎 郎 門 門 門 門 門	新惣惣佐四市 藏九十五良左 郎 郎 郎 郎 郎 門 門 門 門 門

表2 万治2年(1659)までの関東の二猿・三猿付き庚申塔

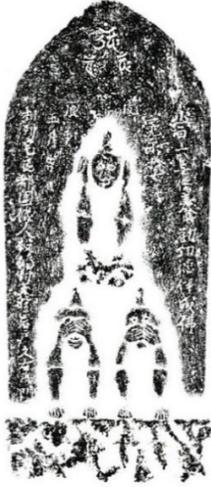
		
①寛永16年(1639) 北区宝幢院	②寛永17年(1640) 茅ヶ崎市輪光寺	③正保3年(1646) 浦安市大蓮寺
		
④承応2年(1653) 富津市竹岡 松翁院	⑤承応2年(1653) 藤沢市伊勢山公園	⑥万治2年(1659) 我孫子市青山八幡神社

表3 千葉県・東京都・埼玉県の三猿三面彫庚申塔

No	年銘	西暦	都県名	所在地市	所在地	銘文などの特徴
1	万治3	1660	千葉	八千代市	吉橋・高本八幡社	「為庚申待現當二世悉地成就処」
2	寛文3	1663	千葉	佐倉市	新町嶺南寺	「奉造建庚申塔」
3	寛文3	1663	埼玉	鴻巣市	本町八丁目 勝願寺	三猿一鶏の線画
4	寛文4	1664	東京	足立区	千住仲町 源長寺	阿弥陀坐像「奉造立庚申供養」
5	寛文5	1665	埼玉	妻沼町	善ヶ島 竜泉寺	「奉口庚申」
6	寛文7	1667	千葉	印西市	浦部原新田庚申塚	「奉造立庚申興二世安穩」
7	寛文8	1668	東京	江東区	亀戸3丁目普門院	「奉造立庚申結衆二世安樂処」
8	寛文8	1668	東京	世田谷区	森巖寺	笠欠 上部に猿
9	寛文10	1670	千葉	船橋市	西船五丁目墓地脇路傍	薬師如来像「庚申待結衆念願」
10	寛文10	1670	埼玉	吉川市	定勝寺	石灯笼竿部三面に一猿ずつ三猿
11	延宝元	1673	千葉	八千代市	萱田 飯綱神社下	「奉造立庚申之人數石仏立之現當二世悉地所」
12	延宝3	1675	東京	文京区	大円寺	「奉石造庚申供養之塔」
13	延宝3	1675	千葉	白井市	富ヶ谷薬師堂	「奉造立庚申為現當二世也」
14	延宝4	1676	東京	豊島区	高田2 金乗院	「奉建立庚申塔婆二世安樂攸」
15	延宝5	1677	千葉	佐倉市	臼井田お猿の松	(銘文未読)
16	延宝6	1678	東京	渋谷区	千駄ヶ谷 延命寺	「奉寄進庚申供養」
17	延宝8	1680	東京	渋谷区	千駄ヶ谷 延命寺	青面金剛像
18	延宝8	1680	東京	台東区	下谷小野照崎神社	六角柱「小野崎大明神寶前」
19	延宝8	1680	千葉	木更津市	吾妻神社	「奉供養新庚申 為二世安樂也」道標付
20	延宝9	1681	千葉	芝山町	山中 宝樹寺跡	青面金剛像「奉造立庚申口口」
21	天和2	1682	千葉	八千代市	島田字通原	「南無妙法蓮華經」
22	天和2	1682	千葉	八千代市	平戸字道地	「妙法蓮華經」
23	天和2	1682	千葉	白井市	上長殿庚申塚	「奉供養庚申待霊／安樂所俣白」
24	天和3	1683	埼玉	さいたま市	西区 塚本神名神社	2基1対 青面金剛像「奉造立庚申為二世安樂也」
25	元禄2	1689	千葉	野田市	関宿台町光岳寺	「奉供養庚申」
26	元禄6	1693	東京	目黒区	上目黒 宿山	青面金剛像「奉尊躰庚申供養二世為安樂也」
27	元禄6	1693	東京	武蔵村山市	三ツ木 慈眼寺	青面金剛像 左右裏面に猿像
28	元禄16	1703	東京	文京区	本駒込3 天祖神社	「奉待庚申為二世安樂」
29	享保2	1717	東京	町田市	常盤 日枝神社	青面金剛像 「同行十三人」
30	享保4	1719	東京	町田市	上小山田神明神社付近	阿弥陀像「奉造立庚申供養」
31	享保12	1727	東京	世田谷区	南烏山2烏山神社	山状角柱型 上部に三猿
32	安永元	1772	千葉	南房総市	府中宇台 路傍	
33	不明		千葉	八千代市	保品 庚申塚群	「諸願成就二世安樂攸」上部欠損

表4 八千代市と近接市の三猿三面彫庚申塔

 <p>②寛文3年(1663) 佐倉市新町嶺南寺</p>	 <p>⑥寛文7年1667) 印西市浦部原新田</p>	 <p>⑪延宝元年(1673) 八千代市萱田</p>	 <p>⑬延宝3年(1675) 白井市富ヶ谷</p>
 <p>⑮延宝5年(1677) 佐倉市臼井田</p>	 <p>⑳天和2年(1682) 八千代市平戸字通原</p>	 <p>㉑天和2年(1682) 八千代市島田字道地</p>	 <p>㉒天和2年(1682) 白井市上長殿</p>

表5 神奈川県内の三猿三面彫庚申塔（寛文11年まで）

No	年銘	西暦	所在地市	所在地	銘文などの特徴
1	寛文元	1661	横浜市	鶴見区北寺尾沢沢稲荷	宝篋印塔「奉新造庚申構供養之菩提也」
2	寛文3	1663	横浜市	栄区金井町会館	阿弥陀像 梵字（キリク）
3	寛文4	1664	厚木市	戸田 八幡神社	「奉造立為庚申供養石塔二世安樂也」
4	寛文4	1664	平塚市	大神 寄木神社	右面猿は消失 高さ3m
5	寛文5	1665	秦野市	南矢名 東光寺薬師堂	バク「為庚申供養也」
6	寛文5	1665	秦野市	鶴巻北2 西光寺	「[供養二世安樂口 為山王]」
7	寛文5	1665	平塚市	出縄 個人宅前	山王二十一仏種子「奉庚申供養」
8	寛文5	1665	平塚市	横内 神田寺	「奉造立庚申供養石塔為二世口樂」
9	寛文5	1665	平塚市	長持 熊野神社	「奉造立口口」「口内二世安樂也」
10	寛文5	1665	平塚市	入野 八坂神社	「奉口造立庚申供養」
11	寛文6	1666	秦野市	菩提1607	「奉請山王権現」
12	寛文6	1666	平塚市	片岡 龍源寺	「奉造立石塔一基」
13	寛文6	1666	横浜市	泉区中田北3 御霊神社	「南無阿弥陀仏」
14	寛文7	1667	秦野市	下大槻 建速神社	「庚申供養」
15	寛文8	1668	伊勢原市	高森2642 付近	「常兩々口庚申」
16	寛文8	1668	伊勢原市	東富岡 龍散禪寺	「南無阿弥陀佛」
17	寛文8	1668	伊勢原市	下谷 薬師堂	
18	寛文8	1668	伊勢原市	上粕屋神社	「口申供養」
19	寛文8	1668	大磯町	生沢1097	「口為二世安樂也 敬白」
20	寛文8	1668	大井町	金子 老人憩いの家	アン・オン・カーン・カーン・カ・・・
21	寛文8	1668	小田原市	田島地藏堂	「奉造立山王宝塔供養諸願成就所」
22	寛文8	1668	小田原市	下大井公民館	アーク・アン ナウ・カ・ダ・・・
23	寛文8	1668	中井町	遠藤 五所八幡宮	「奉造立庚申供養」
24	寛文8	1668	二宮町	山西（非公開）	「為奉納山王供養菩提也」
25	寛文9	1669	伊勢原市	高森 稲荷神社	「常兩〔 〕庚申」
26	寛文9	1669	大磯町	生沢886	キャカラバ・・・「為奉造立庚申供養」
27	寛文9	1669	大磯町	寺坂 王福寺	「口二世安口立之 敬白」
28	寛文9	1669	小田原市	酒匂共同住宅前	「奉造立供養庚申宝塔」
29	寛文9	1669	小田原市	国府津 安楽院	「奉造立六地藏」
30	寛文9	1669	二宮町	一色 浄源寺	「奉造立庚申供養」
31	寛文9	1669	平塚市	真田1 天徳寺	山王廿一社種子「奉造立庚申供養・」
32	寛文9	1669	横浜市	青葉区鴨志田町甲神社	祀「山王権現奉建立・」「南無阿弥陀仏」
33	寛文9	1669	藤沢市	本町4 常光寺	阿弥陀三尊種子「南無阿弥陀佛」
34	寛文10	1670	愛川町	田中 鑑照寺	「奉造立庚申供養」
35	寛文10	1670	鎌倉市	大町1 八雲神社	「奉造立山王二十一社」
36	寛文10	1670	中井町	井ノ口4056	「為庚申供養也」
37	寛文10	1670	秦野市	平沢 増珠院	「口口申口供養 施主 敬白」
38	寛文10	1670	松田町	松田庶子 桜観音堂	「奉造立庚申」
39	寛文10	1670	松田町	松田惣領 延命寺	「山王大権現」「庚申供養祈願・・・」
40	寛文11	1671	伊勢原市	上粕屋 石倉不動堂	バク・「奉庚申供養口」
41	寛文11	1671	逗子市	逗子5 亀岡八幡宮	青面金剛像「庚申供養衆安中」
42	寛文11	1671	中井町	比奈窪自治会館	「奉造立庚申供養」
43	寛文11	1671	秦野市	堀川707	「山王大権現」
44	寛文11	1671	秦野市	西大竹310	「奉造立申[庚]供養塔一宇」
45	寛文11	1671	平塚市	高根359	真言 金剛五仏の種子「青面金剛」
46	寛文11	1671	山北町	向原鷺鷹集会所（十王堂）	「奉造立山王大権現」
47	寛文11	1671	山北町	岸（宿）盤石院入口	ア・バン・ウーン「山王大権現」
48	寛文11	1671	横浜市	泉区中川地区センター	

表6 寛文期の関東地域の三猿三面彫庚申塔



①寛文元年（1661）
横浜市鶴見区沢沢稲荷



②寛文4年（1664）
厚木市戸田八幡神社



③寛文4年（1664）
平塚市大神寄木神社



④寛文6年（1666）
横浜市泉区御霊神社



⑤寛文8年（1668）
江東区亀戸普門院



⑥寛文9年（1669）
藤沢市藤沢常光寺